

ていた会議の参加者（筆者も含む）の心を打つスピーチだった。筆者も、とすれば「(お金さえくれれば)うちは、貢献できます」という様なアジアの国の態度に少し頭にきていたところで、「最近、日本も少し、金を出すからと言って我々の態度は少し驕っているのではないかと反省した次第である。

最後に、今後の予定であるが、“TOGA COARE Implementation Plan”の改訂版が、この夏には完成し、10月には、“TOGA Operational Plan”の原案が作られるはずである。最終の国際的な調整会議は、来年3月、オーストラリアのタウンズヴィルというCOAREの実験センターのおかれる街で行なわれることとなった。



“Global Change (IGBP)”に関する国際シンポジウム開催のお知らせ

地球圏—生物圏 国際共同研究計画 (IGBP) は、“地球系”の物理的・化学的・生物的諸過程の相互作用を理解し、近未来における気候変動をはじめとする地球規模での環境変動を予測することを目的として始められた国際共同研究計画です。わが国でも学会会議を中心にこの計画に積極的に参加していますが、今回モンスーンアジアに一つの焦点をあてた“Global Change”についての国際シンポジウムが開かれます。4つのテーマについて発表論文を募集しておりますので、ふるってご参加願います。またすでに“First Circular”が出されておりますので関心のある方は事務局にご連絡ください。

会議名：INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON
GLOBAL CHANGE (IGBP)

期間：1992年3月27～29日

場所：早稲田大学国際会議場

主催：IGBP 日本国内委員会・IGBP 国際科学委員会
・早稲田大学

セッション・テーマ：

- (1) 温室効果気体の生成源と消失先
- (2) 地球圏変動における海洋の役割
- (3) 陸上生態系に与える地球圏変動の影響
- (4) モンスーンアジアにおける古環境

参加費：20,000円（但し1日参加及び学生は5,000円）

連絡先：Global Change (IGBP) に関する国際シンポジウム事務局 c/o M & J International
横浜市旭区今宿町 2210-2
FAX：045-361-9681



衛星搭載大気観測センサー ILAS/RIS サイエンスチームメンバー募集のお知らせ

宇宙開発事業団が平成7年初頭に打ち上げを予定している地球観測プラットフォーム技術衛星(ADEOS)に、環境庁はふたつの大気観測用センサーを搭載しオゾン層破壊、地球温暖化に関係する大気微量成分の観測を行うこととしています。

ひとつは改良型大気周縁赤外分光計(ILAS)と呼ばれ、太陽光を光源とし赤外領域の太陽光が地球大気層を通過するときに受ける吸収スペクトルの測定から、微量成分(オゾン、メタン、水蒸気、二酸化窒素、硝酸、フロン11等)濃度の高度分布を求めます。また、可視領域(750~780 nm)における酸素分子による吸収スペクトル測定から、気温・気圧・エアロゾルの高度分布が求められます。おもに南極、北極周辺の高緯度地域の高度10~60 kmが測定対象領域となります。

他のひとつは、レーザー光反射用のリトロフレクター(RIS)で、地上局から発射するレーザー光を高効率で反射させ、地上局において受信します。赤外領域のレーザー光源を用い、レーザー光の吸収スペクトル測定からオゾン、一酸化炭素等の大気微量成分の濃度を高精度で求めます。

ILAS, RIS プロジェクトはいずれも機器の製作はメーカーによって行われますが、それ以外に原理検証実験、機器校正試験、データ解析アルゴリズムの開発、データ処理・運用ソフトウェアの開発、打ち上げ後の検証実験、データ利用研究等に至るまで非常に幅広い研究課題を含んでおり、多くの分野の専門家の共同作業として達成されるものです。そこで、環境庁国立環境研究所ではILAS, RISのそれぞれにサイエンスチームを組織し、両プロジェクトを進めています。

すでに、国内外の大学、国立研究機関の研究者がサイエンスチームに参加し、研究を分担して頂いています。衛星打ち上げを約3年半後に控え、さらに多くの研究者の参画を得てプロジェクトの一層の推進を図りたいと考えています。

特に次の分野で、サイエンスチームメンバーとしてプロジェクトに参加して頂ける方を求めています。

ILAS プロジェクト

- インバージョン法によるデータ解析アルゴリズムの開発
- スーパーコンピュータ利用の吸収スペクトル高速演算アルゴリズムの開発
- 赤外、可視分光器地上校正実験
- データ処理・運用ソフトウェア(データベースネットワークを含む)システムの開発
- 打ち上げ後検証実験の企画・実施
- データ利用研究(極域成層圏の大気化学、力学過程等)

RIS プロジェクト

- レーザー長光路吸収測定実験
- インバージョン法によるデータ解析アルゴリズムの開発
- 打ち上げ後検証実験の企画・実施
- データ利用研究(大気微量成分の化学等)

ILAS, RIS サイエンスチームはそれぞれ独立で、いずれも年に2~4回のサイエンスチームミーティングが予定されています。ミーティングあるいは国立環境研究所での打ち合せ、研究活動のための出張経費等は支給されます。また、サイエンスチームメンバーが実施する研究に対しては予算面及び研究設備面での援助が可能です。

ILAS, RIS のそれぞれのサイエンスチームメンバーは、サイエンスチームの活動の結果として生産されるすべてのデータ、ソフトウェア等に対して優先的にアクセスすることが出来ます。

ILAS/RISサイエンスチームにご関心のある方は下記へお問い合わせ下さい。

国立環境研究所地球環境研究グループ
ILAS/RISサイエンスチームリーダー
笹野泰弘

〒305 つくば市小野川116-2

TEL 0298-51-6111

FAX 0298-51-4732

象観測データとの対応の統計解析を行い、鉛直風擾乱の活動度と米子の地上風との間に強い相関のあることを見いだした。この結果は、MUレーダーで観測された鉛直風擾乱が西方数百 km に位置する中国山地の山岳効果で励起された地形性重力波（山岳波）であることを立証し

たものと言える。

これらの研究結果は、今後の更なる観測解析に向けての第一歩であり、将来の進展が大いに期待される。よって日本気象学会は本論文に対し今年度の山本・正野論文賞を贈るものである。



E.N. Lorenz 教授が京都賞を受賞

稲盛財団は、第7回（1991年度）京都賞基礎科学部門の受賞者として、気象力学の基礎を固め、また決定論的カオスを発見した Edward N. Lorenz (M.I.T. 名誉教授) を選んだことを発表した。記念講演会が11月11日（月）午後1時10分から、同会館において開催される。

ワークショップ講演題目：

E.N. Lorenz

“How Good Can Weather Forecasting Become?”

余田成男（京都大学理学部）

“Local Lyapunov Stability and Atmospheric Predictability”

国府寛司（京都大学理学部）

“Bifurcations of Homoclinic and Heteroclinic Orbits and Chaos”

澤田康次（東北大学電気通信研究所）

“Chaos in Thermal Convection”

津田一郎（九州工業大学情報工学部）

“Chaotic Computation in Biological Systems”

問い合わせ先：廣田勇または余田成男まで

（電話）075-753-3931 または 3932

編集後記：月日の経つのは早いもので、前回（1982年、第29巻4号）索引が作られてから、まもなく10年が経過します。現在、編集委員会では第29巻以降の索引の作成準備を進めています。様々な情報の氾濫の中、如何にして必要な情報を選択するかが重要になっていますが、それに役立つためにどのような索引が適切か議論を進めています。ご意見をお寄せ下さい。

さて、昔の目次を見直してみると、開店休業状態のコーナーがあることに気がきます。例えば、「質疑応答欄」です。これは、「読者から寄せられた質問（気象に関係

があればどんなものでも可）に対し、編集委員会が会員の中から適当と思われる方を選んで、回答を依頼して答えていただくものです。」が、特に質問の作成や依頼をしていませんので、開店休業状態になっています。

回答者の方の御名前は、記事に出ますが、質問者は匿名です。これは質問しやすいようにという配慮からで、「みんなは納得しているらしいが、どうも自分には分からない」とか、「講義（?!）で教えていてどうもうまくいかない。」とか、どんな時にも使えます。

質問の投稿もお待ちしています。

（中村晃三）

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
第28回自然災害科学総合シンポジウム	1991年10月2日	同実行委員会	長野バスターミナル会館	Vol. 38, No. 7
第17回リモートセンシングシンポジウム	1991年10月2日 ～3日	計測自動制御学会	国立教育会館	Vol. 38, No. 7
日本海洋学会創立50周年記念大会	1991年10月14日 ～19日	日本海洋学会	カンダパンセ（東京）	
日本気象学会 平成3年度秋季大会	1991年10月23日 ～25日	日本気象学会	名古屋国際会議場	Vol. 38, No. 5
Quardrennial Ozone Symposium	1992年6月4日 ～13日	IAMAP/IOC	アメリカ Verginia 大学	
第11回雲と降水に関する国際会議	1992年8月17日 ～21日	IAMAP/ICCP	カナダモントリオール McGill 大学	Vol. 38, No. 4
第13回ニュークリエーションと大気エアロゾルに関する国際会議	1992年8月24日 ～28日	IAMAP, CNA, ICCP	アメリカユタ州ユタ大学	Vol. 38, No. 1
International Symposium on GLOBAL CHANGE (IGBP)	1992年3月27日 ～29日	IGBP科学委員会, IGBP 国内委員会, 早稲田大学	早稲田大学	



講演会のお知らせ

「地球の気候は今後どのように変化するか

——現在わかっていること、わかっていないこと」

コロンビア大学ラモントードハーティ地球科学研究所

副所長 Prof Taro Takahashi

主催：日本工学アカデミー
電気化学協会九州支部

共催：日本化学会九州支部
九州産業技術センター（予定）

協賛：日気象学会（予定）
化学工学会（予定）
他

日 時：10月23日（水）14時～16時

会 場：九州大学記念講堂大会議室
（福岡市東区箱崎 6—10—1）

連絡先：〒816 春日市春日公園 6-1

九州大学大学院総合理工学研究科材料開
発工学専攻
荒井弘通 ☎092-573-9611 内線 310